



校 歌

作詞 新屋敷 幸 繁
作曲 中山 興 真

みーどりしたたる おおかわの
 くにつちふーかく わきいづる
 いずみをくみてーとーかいの
 なみよりのーぼるひをおがみ
 わーかきゆーしの たてこもるしろ
 のごと たーつ わがきんこう

一、みどりしたたる大川の

国土深くわき出づる
泉をくみて東海の

波より上る日を拝み

若き勇士の立てこもる

城のごと立つ我が金武校

二、いざいざ行かん五大州

われらの家は世界ぞと

東海をさす当山翁

黄金花咲く金武の里

言葉の花も実をもちて

賢き通す金武魂

三、守る国頭山遠く

静かにこもる蔡温の

七尋の池堀そへて

注ぐ池原きんた原

かけてゆたげき農村の

文化の花ぞ咲き匂う

四、ここに巢立つか金武校に

わが魂を育てあげ

人材出でよ世に出でよ

金武の洞穴ちえ深く

島々こめし金武湾の

清き誇りを世に立てよ

五、いざいざ行かん五大州

東海望む窓あけて

朝に文よむ椰子のかけ

誠一つの金武世界

磨く力も限りなき

理想に燃ゆる我が金武校